

情報経営科

2023課題研究 Vol.4

”Think Globally Act Locally”

6月13日(火)有田市糸我の体験型雑貨屋「BLUE MARBLE」を訪れました。京都芸術大学卒業の二人の若いアーティストが迎え入れてくれました。お二人は、大阪と京都市の都会人ですが、自然への畏怖、畏敬という同じ価値観を有する二人が自然の魅力を感じて有田市に移住してきました。お店は築70年のみかん倉庫を借り受けながらDIYにより改装したとのこと。元々みかん倉庫に眠っていた陶器や古着なども商品として展示されていました。店名の由来は「アポロ17号」から撮影された国境のない青い美しい地球を大事にしたいという思いからきています。生徒たちには、「宇宙船の窓から地球を見るマクロの視点と虫眼鏡でみるミクロの視点を大事にして欲しい」「地球規模の課題を考えながら、地域の既知の新事実を探究しよう」と話されていました。今後は体験型雑貨屋として、様々なイベントを企画しながら地域の方とコミュニケーションを楽しみたいとのことでした。

瓦の土が落ちてくる築70年のみかん倉庫跡ですが、市に補助金を申請して改装したとのこと。移住する際の物件探しは、困難を極めたとのこと。行政が空き家バンクのHPを開設していますが、案外浸透していないようです。行政だけでなく地域全体で空き家の可能性を含めた情報発信ができれば、移住を呼び込み空き家の利活用にもつながるのではと見解を述べられていました。今日の取材を通して、空き家を研究することは、「持続可能なまちづくりと地域の可能性を探ること」に改めて気付かされました。



築70年の空き家がDIYにより体験型雑貨屋として再生され、地域の拠点となっています。

